

評価結果総括

法人名 社会福祉法人 恵愛会
事業所名 介護老人保健施設 四季の森
施設長名 施設長 澤田 名美枝

□ 評価方法

自己評価方法

実施期間 平成 27 年 8 月 25 日～平成 27 年 12 月 18 日
実施方法 全職員が協議して自己評価を実施し、施設としてまとめた。

評価調査員による評価方法

実施日 平成 28 年 2 月 16 日、平成 28 年 2 月 23 日
実施方法 評価調査員 2 名が訪問し、施設の見学、資料確認及びヒアリング等で実施した。

利用者家族アンケート実施方法

実施期間 平成 27 年 12 月 20 日～平成 28 年 1 月 16 日
実施方法 施設から利用者の家族へ配布し、返送は直接家族より評価機関に郵送してもらった。

利用者本人調査方法

実施日 平成 28 年 2 月 16 日、平成 28 年 2 月 23 日
実施方法 評価調査員 2 名が訪問し、入所者 10 名に対して一対一の面談で実施した。

□ 総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

【施設の概要】

介護老人保健施設 四季の森は、社会福祉法人恵愛会が平成 14 年 4 月に開設しています。JR 横浜線中山駅からバスで約 10 分、バス停で下車し徒歩 3 分程の県立四季の森公園に隣接した緑の豊かな環境にあります。入所定員は 92 名（2 階：一般棟 48 名、3 階：認知症棟 44 名）です。短期入所療養介護、通所リハビリテーションも併設しています。平成 27 年 12 月現在の入所者数は 85 名（男性 19 名、女性 66 名）平均年齢 84.8 歳、平均要介護度 2.9、平均入所期間 1 年 3 ヶ月です。「慈愛の行動化」を理念とし職員は障害を持った高齢者が抱えている問題を一緒に取り組んで住み慣れた地域で自立した生活を送れるように慈愛の精神で支援しています。

《優れている点》

1. 在宅生活を想定した個別援助計画を作成しリハビリに反映しています

アセスメントには医師、看護師、准看護師、介護支援専門員、介護員、栄養士、機能訓練指導員、支援相談員などそれぞれの分野の職員及び本人・家族が参加し利用者一人ひとりの課題を分析しています。在宅復帰を想定して入所初期に自宅の間取りや生活様式・玄関の段差・階段・トイレ・浴槽等の仕様をアセスメントして、個別援助計画を作成しリハビリに反映させています。利用者一人ひとりのケアプランに沿って個別訓練、有酸素体操や発声訓練などの集団訓練、レクリエーション、クラブ活動、季節の行事、イベント食などを実践しています。レクリエーションの中には立ち上がり訓練や嚥下体操、風船バレー等を取り入れています。理学療法士は個別リハビリ実施日以外も、立ち上がりや歩行状態など随時利用者に関わっており、歩行状態の改善等効果が上がっています。利用者の機能訓練についての実施計画は理学療法士と看護師、介護職が連携して作成し、個別援助計画に明示し、利用者・家族に説明しています。計画は定期的なケアカンファレンスのみでなく日々内容を見直しています。毎月ケアの事例検討を中心にケア勉強会を開催しサービスの向上に取り組んでいます。個別の支援計画をわかりやすく工夫し、本人のこだわりなど配慮して個性を尊重したプランを作成しています。

2. プロジェクトを立ち上げ問題や課題の解決に取り組んでいます

職員は毎月専門知識や技術向上を目指し豊かな人間性を作り上げるために各種の研修を企画し実践しています。職員自身が工夫改善したサービスの事例をもとにサービスの向上を目指した事例検討会を開催し、全員で一貫性のある支援を学んでいます。職員が立ち上げ、自主的に参加する「ありがとうプロジェクト」では接遇のケアを中心にしてテーマを持ち寄り検討しています。それ以外の課題なども各委員会に持ち帰り解決しています。食事・排泄・入浴・更衣・体位交換・ノロウイルス処理などの介助の標準動作について職員が自ら実体験し、絵入りベーストレーニング用のテキストを作成

し毎年訓練しています。ウイルスの拡散防止対策のベーストレーニングでは職員の寸劇によるDVDを作成し、職員一人ひとりがパソコンで繰り返し確認しています。吐瀉場面では飛び跳ねる範囲などを判断しやすい様にカラーで作成しています。事故事例や転倒防止・トイレでの立ち上がり方などのDVDを作成し、職員だけでなく利用者も見て覚えてもらえるように作成しています。利用者の集まるリビングに事故防止の安全ポスターを掲示し、利用者にも安全意識を高めています。非常勤職員も職員と同様に各研修会に参加し、教育のプリセプター制度を活用して資質の向上に努めています。

3. 地域のボランティアが積極的に参加し協力しています

施設開設当時から近隣の住民の方たちがボランティアとなって施設のシーツ交換作業や納涼祭などの手伝い等に積極的に参加しています。前年度の受け入れ数は近隣の「ひまわりの会」延べ302人、上白根小学校2年生延べ108人、「どんぐりの会」、一般ボランティア、等々延べ600人以上の各種の団体・個人に様々な形で協力してもらっています。利用者の生活の広がりや施設が閉鎖的にならないためにもボランティアを積極的に受け入れ、ボランティアの会員で構成している「ボランティア交流会」を通して地域の理解を深めています。

《改善することが期待される事項》

1. 重度介護者に対する医療マニュアルの作成

利用者の重介護化・高齢化に伴い、医療的依存度の高い利用者が増え、急変のリスクも高くなってきています。そのため中重度介護者に対する医療体制を固めるため介護職員への医療的知識や技術の習得をサポートする一方、予防的医療が不可欠になっています。本人や家族に対して親切な説明と意思決定のため予防的な医療と実践を推進し中重度要介護者などを受け入れる体制を強化しています。医療マニュアルは整備されていますが末期がんなどの中重度介護者の異常の早期発見・早期対応などに対する対応マニュアルを作成し、職員の統一した支援の実施が期待されます。

2. 第三者から見たケア支援への気づきの把握

事業所開設当時から近隣住民の方たちがボランティアとなっています。施設のシーツ交換作業や隣接する県立四季の森公園を利用者と散策したり、納涼祭などの行事の手伝いにも積極的に参加してもらっています。ボランティアはいろいろな交流から利用者と同様になり、信頼関係を築いています。「どんぐりの会」「ひまわりの会」のメンバーや近隣の小学生、一般のボランティアなどで構成する「ボランティア交流会」には多数参加し、施設に対する地域の理解を深める機会となっています。現在介護相談員の訪問が中断し、外からの第三者の目が少なくなっています。職員は「ありがとうプロジェクト」や各委員会の職員から課題を取り上げて改善しています。今後はボランティアや実習生などにアンケートや感想文などの協力を依頼し、第三者から見た気づきなどを把握してサービスの向

上に反映することが期待されます。